

御杖村地球温暖化対策実行計画 (事務事業編)

令和7年(2025年)1月

奈良県御杖村

目 次

1. 地球温暖化防止対策(事務事業編)	1
(1) 施策を推進する基本的な考え方	1
①対象範囲	1
②計画の対象となる温室効果ガス	2
(2) 事務事業活動に係るCO ₂ の排出状況	3
①基準年度のCO ₂ 排出量	3
②要因別の排出状況	3
(3) CO ₂ 排出量の削減目標	4
①目標設定の考え方	4
②削減目標	4
(4) 目標達成に向けた取組	5

1. 地球温暖化対策(事務事業編)

(1) 施策を推進する基本的な考え方

本計画は、地球温暖化対策の推進に関する法律第 21 条第 1 項に基づき都道府県及び市町村に策定が義務付けられている温室効果ガスの排出量の削減のための措置に関する計画（以下、実行計画という。）として策定するものです。

本村では令和 2 年度を基準年とした「第 1 次御杖村地球温暖化対策実行計画」をもとに主な地球温暖化対策を進めてきましたが、令和 3 年に国が示した、改正地球温暖化対策推進法に基づき、本計画を見直し、区域施策編と一体的に策定するとともに、施策の推進を行います。

① 対象範囲

本村において、稼働している下記の施設と公用車、またそれに係る事務・事業全般を対象範囲とします。

(対象施設一覧)

所 管 部 署	施 設 名	種 別
総務課	御杖村役場	行政系施設
	旧御杖村立御杖小学校	その他施設 (令和 2 年度までは学校教育系施設)
教育委員会	御杖村立御杖小・中学校	学校教育系施設
	土屋原公民館（土屋原体育館含む）	村民文化系施設
	御杖村山村開発センター	
	桃俣多目的研修センター (桃俣体育館含む)	
	神末中央集落センター	
	御杖村神末体育館	スポーツ・レクリエーション系施設
	御杖村菅野体育館	
保健福祉課	御杖村立御杖保育所	子育て支援施設
	御杖保健福祉医療総合センター	保健・福祉施設
むらづくり振興課	みつえ体験交流館	スポーツ・レクリエーション系施設
	みつえ温泉「姫石の湯」	
	みつえ青少年旅行村	
	三季館	

(対象公用車)

対象公用車	台 数
	25 台

②計画の対象となる温室効果ガス

実行計画で削減対象とする温室効果ガスは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第2条 第3項で定められた7種類のガスのうち、排出量の多くを占めている「**二酸化炭素（CO₂）**」を対象とします。

ガスの種類	人為的な発生源
二酸化炭素（CO ₂ ）	電気の使用や暖房用灯油、自動車用ガソリンなどの使用及び、廃プラスチック類の焼却などにより排出される。対象とされる7種類の温室効果ガスの中では、排出量が最も多い。
メタン（CH ₄ ）	自動車の走行や、燃料の燃焼、一般廃棄物の焼却、廃棄物の埋立などにより排出される。
一酸化二窒素（N ₂ O）	自動車の走行や、燃料の燃焼、一般廃棄物の焼却などにより排出される。
ハイドロフルオロカーボン（HFC）	カーエアコンの使用・廃棄時などに排出される。
パーフルオロカーボン（PFC）	半導体の製造、溶剤などに使用され、製品の製造・使用・廃棄時などに排出される。（地方公共団体では、ほとんど該当しない。）
六ふっ化硫黄（SF ₆ ）	電力設備の電気絶縁ガス、半導体の製造などに使用され、製品の製造・使用・廃棄時などに排出される。（地方公共団体では、ほとんど該当しない。）
三ふっ化窒素（NF ₃ ）	半導体製造でのドライエッチングやCVD装置のクリーニングに使用される。（地方公共団体では、ほとんど該当しない。）

【用語解説】

1. ドライエッチング

集積回路の形成など半導体を加工する際、半導体基板の表面薄膜または半導体の一部を削り取るのに反応性イオンガスやプラズマガスを用いる方法

2. CVD装置

薄膜（はくまく）形成装置の一つで、半導体の表面に膜を堆積する装置。薄膜の原料としてさまざまな種類のガスが使用されていますが、薄膜形成にはこれらのガスに化学反応を起こさせる必要があり、その手段として「熱」「光」「プラズマ」などが利用されている。

(2)事務事業活動に係るCO₂の排出状況

①基準年度のCO₂排出量

御杖村の事務事業活動における基準年度(令和2年(2020年)度)のCO₂排出量は、724.4 t-CO₂です。

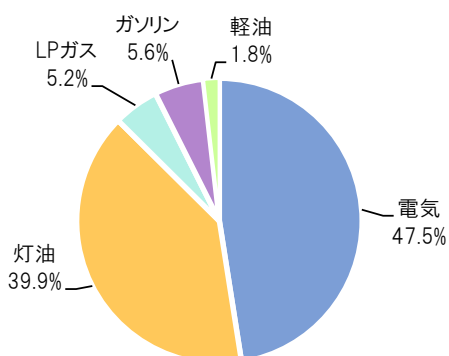
区 分	CO ₂ 排出量
二酸化炭素 (CO ₂)	724.4 t-CO ₂

②要因別の排出状況

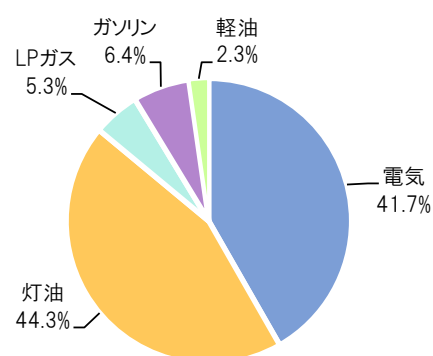
直近実績値の令和5年(2023年)度CO₂排出量をエネルギー種類別に見ると、灯油の割合が44.3%と最も高く、次いで電気の割合が41.7%となっています。また、基準年度である令和2年(2020年)度のCO₂排出量と比較すると、電気の割合が減少し、灯油の割合が増加しています。

◆CO₂排出量の内訳(エネルギー種類別)

《基準年度排出量令和2年(2020年)度》



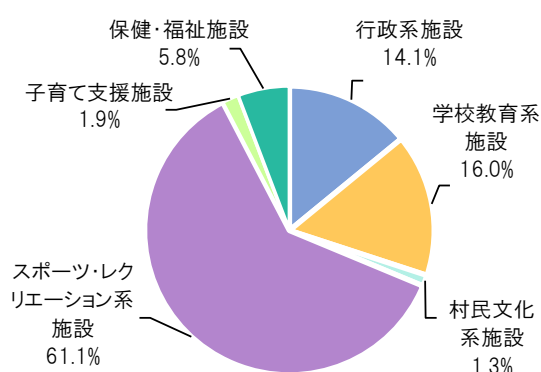
《現状年度排出量令和5年(2023年)度》



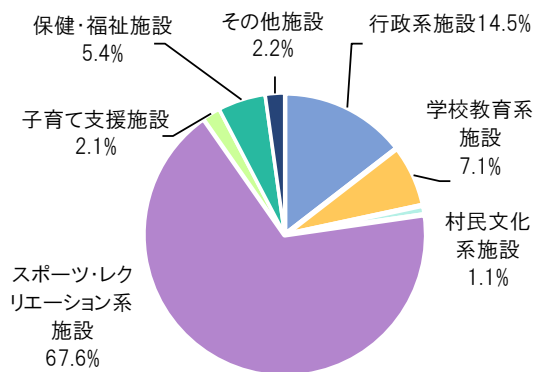
施設別では、令和5年(2023年)度にスポーツ・レクリエーション系施設が全体の67.6%を占め、基準年度より増加しています。また、小中学校統合で御杖小学校が廃校となったことにより、学校教育系施設が減少しています。

◆CO₂排出量の内訳(施設別)

《基準年度排出量令和2年(2020年)度》



《現状年度排出量令和5年(2023年)度》



※その他施設は旧御杖村立御杖小学校(令和2年度までは学校教育系施設)

(3)CO₂排出量の削減目標

①目標設定の考え方

本村において、2013 年度以外の基準年度として令和 2 年（2020 年）度を設定するため、政府実行計画の削減目標を基に設定しました。

算出方法は、基準年度で按分して削減率を算定し、30%を目標とします。

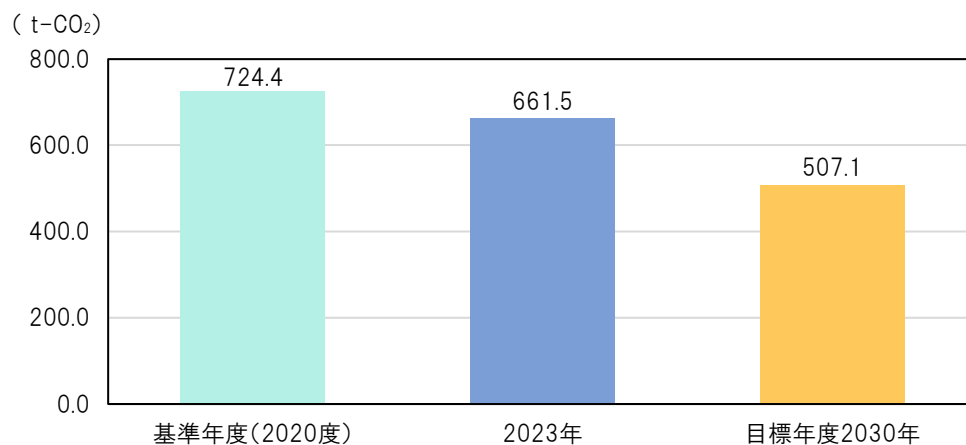
$$50\% / (2030-2013) \times (2030-2020) = \text{約 } 29\% \div \mathbf{30\%}$$

②削減目標

目標年度令和 12 年（2030 年）度に、基準年度令和 2 年（2020 年）度を基準年として、30%削減することを目標としています。

区 分	基準年度排出量 令和2年(2020 年)度	現状年度排出量 令和5年(2023 年)度	目標年度排出量 令和12年(2030 年)度
CO ₂ 排出量	724.4 t-CO ₂	661.5 t-CO ₂	507.1 t-CO ₂
削減率	—	8.68%	30.0%

◆CO₂排出量の削減目標



(4)目標達成に向けた取組

※太字は政府実行計画に新たに盛り込まれた内容です。自治体においてもそれに準じる形で推進することが推奨されています。

1 再生可能エネルギーの積極導入

項 目	具体的な取組
太陽光発電の最大限の導入	■ 2030 年度には設置可能な建築物(敷地を含む。)の約 50%以上に太陽光発電設備を設置することを目指します。
環境にやさしい再生可能エネルギーの導入検討	■ 小水力発電をはじめ、極力環境に負荷のかからない再生可能エネルギーの導入を検討します。
みつえ温泉「姫石の湯」の薪ボイラーのさらなる高効率運用	■ 現在導入している薪ボイラーの現状を把握し、より高効率な稼働となるよう、関係機関と連携を取りながら適切に運用します。

2 施設設備の改善等

項 目	具体的な取組
建築物における省エネルギー対策の徹底	■ 再生可能エネルギー導入可能性調査※を実施し ZEB 化※を検討します。
	■ 今後予定する新築事業については原則 ZEB Oriented 相当以上とし、2030 年度までに新築建築物の平均で ZEB Ready 相当となることを目指します。
電動車の導入	■ 代替可能な電動車(EV※、FCV※、PHEV※、HV※)がない場合などを除き、新規導入・更新 については 2022 年度以降全て電動車とし、ストック(使用する公用車全体)でも 2030 年度までに全て電動車を目指します。
	■ 電動車の導入に合わせ、公共施設への充電ステーションの整備を推進します。
LED 照明の導入※	■ 既存設備を含めた LED 照明の導入割合を 2030 年度までに 100%を目指します。
高効率な空調設備への更新	■ 空調設備を更新する際には、省エネルギー型の高効率な空調設備を推進します。また、空調機器のフィルター類の掃除頻度を高め、送風効率を向上させます。

③ 物品購入等

項 目	具体的な取組
グリーン購入※の徹底	■ 電気製品などの物品の新規購入、レンタルをする時には、省エネルギータイプで環境負荷の少ないものの購入に努めます。
	■ 事務用品は、詰め替えやリサイクル※可能な消耗品、リサイクル用紙などの購入に努めます。
	■ 環境ラベリング(エコマーク、グリーンマークなど)対象製品の購入に努めます。
再生可能エネルギー※電力調達の推進	■ 2030 年度までに村役場で調達する電力の 60%以上を再生可能エネルギー電力となるよう目指します。

④ その他の取組

項 目	具体的な取組
電気使用量の削減	■ 効果的・計画的な事務処理に努め、夜間の残業の削減を図り照明の点灯時間の削減に努めます。
	■ 昼休みやトイレ、調理室などに利用者がいない場合の消灯、時間外の不必要箇所の消灯を行います。
	■ 退庁時に身の回りの電気器具の電源が切られていることを確認します。
燃料使用量の削減	■ 急発進、急加速をしないなど、エコドライブを実践します。
	■ 車両を適正に整備・管理し、排気ガスの削減に努めます。
	■ 公用車から離れる時は必ずエンジンを切り、無駄なアイドリングは控えます。
廃棄物の 3R + Renewable (ゴミの減量、リサイクル)	■ プラスチックごみをはじめ庁舎などから排出される廃棄物の 3R+Renewable を徹底し、サーキュラーエコノミー※への移行を総合的に推進します。 ・物品の再利用や修理による長期利用に努め、ゴミの減量化を図ります。 ・廃棄物の分別排出の徹底に努めます。

	・使い捨て容器の購入は極力控えます。 ・OA機器、家電製品、公用車などを処分する場合は、適正処理を徹底します。
ペーパーレス化の推進	■ 両面印刷、裏面コピーを徹底し、用紙の削減に努めます。
	■ コピーによる個別配布を減らし、資料の電子化やモニターやプロジェクターを活用した会議や打ち合わせを推奨します。
	■ 庁内 LAN や電子メールなどを活用し、電子決裁化を推進します。
水道	■ 日常的に節水を心がけます。
	■ 自動水栓、節コマなどの節水型機器の導入に努めます。
環境保全に関する意識向上、率先実行の推進	■ クールビズ※・ウォームビズ※を推進します。
	■ 施設の暖房は、利用状況に応じた管理を行います。
	■ 「ノー残業デー」や職員の事務負担を軽減する職場環境づくりを推進するとともに、定時退庁を奨励することで節電に努めます。

< 地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム(LAPSS)の活用について >

【システムの概要】

「地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム Local Action Plan Supporting System 通称：LAPSS（ラップス）」は、環境省が提供する事務事業編の策定及び温室効果ガス※総排出量の算定・管理を円滑に推進するための支援システムです。

事務事業編の策定・運用に係る事務負担軽減・排出量計算精度の向上や、事務事業編の PDCA サイクル※高度化に向けた各団体のニーズに合った情報提供を目的として作成されました。

【システムの活用イメージ】

LAPSS では複数の機能を活用することができますが、以下では3つの機能について、簡単に紹介します。

(ア)実行計画策定支援機能

この機能を活用することにより、ひな型に沿って入力するだけで実行計画に関する情報の登録が可能です。登録された情報は帳票として出力することもできるため、実行計画の策定・公表に係る負担を軽減できます。また、実行計画の改定時には、前回策定した実行計画の情報を引き継いで作成することが可能です。

実行計画策定支援機能の活用イメージ

実行計画策定に必要な基礎情報（実行計画名、計画期間、基準/目標年度、目標年度温室効果ガス排出量等）を登録することができます。

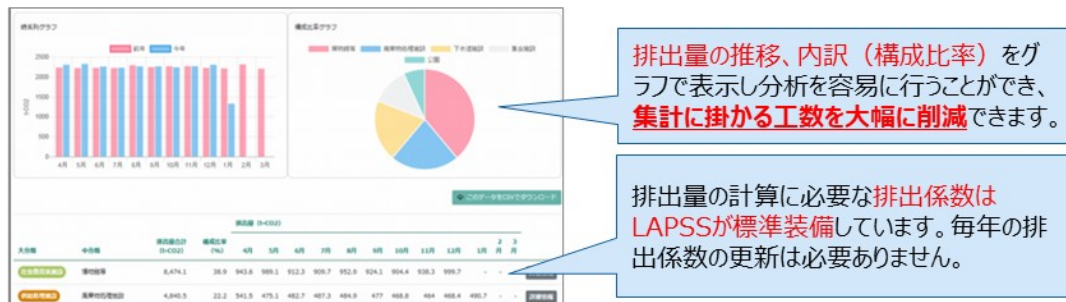
目的、温室効果ガスの排出状況等実行計画の関連情報の登録も可能です。

フォーマットに沿って必要事項を入力した後、登録内容は帳票出力することができるため、**実行計画の策定、公表に係る負担を軽減**できます。

(図 1 実行計画策定支援機能の活用イメージ)

(イ) 排出量算定・集計機能

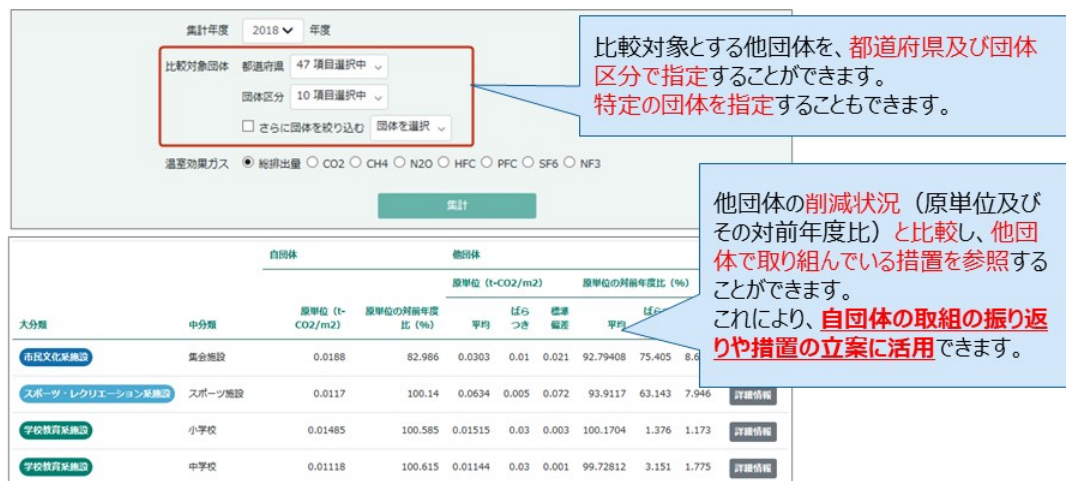
「排出量算定・集計機能」を活用した場合のイメージは以下の通りです。この機能を活用することにより、条件（集計範囲、温室効果ガスの種類、集計方法）を組み合わせた集計出力が可能であり、排出量の推移・内訳を見える化することができます。また、排出係数はLAPSSが標準装備しており、更新作業は不要です。



(図2 排出量算定・集計機能の活用イメージ)

(ウ) 他団体機能比較

「他団体機能比較」を活用した場合のイメージは以下の通りです。この機能を活用することにより、他団体と削減量(原単位の対前年度比※)を比較し、削減効果の高い団体の措置※を参照することができます。



(図3 他団体機能比較の活用イメージ)

【システムを活用するために】

LAPSSを活用したい場合には、環境省への申し込みなどの事前準備が必要となりますので、詳細は環境省ウェブサイト「支援システム」をご覧ください。環境省ウェブサイト「支援システム」。

< https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/shien.html >

◆ V2H とは？ ◆

★V2H とは「Vehicle to Home」の略称です。直訳すると「クルマから家へ」という意味です。具体的には、電気自動車 (EV) やプラグインハイブリッド車 (PHEV) のバッテリーに貯めている電力を、自宅や施設などの建物で使えるようにする機器を V2H といいます。また、災害時に停電が発生した場合、V2H や EV を活用することで、避難生活の負担を軽減することができます。

■ 国産 V2H 対応車種

トヨタ	三 菱	日 産
・bZ4X ・プリウス PHV(2019 年 5 月以降のモデル) ・MIRAI(停電時のみ対応) ・クラウンセダン FCEV ・クラウン SPORT RS	・eK クロス EV ・アウトランダーPHEV ・エクリプスクロス PHEV ・i-MiEV ・MINICAB-MiEV (バン・トラック) ・MINICAB EV	・リーフ ・アリア ・サクラ ・e-NV200 ・クリッパーEV
		スバル
ホンダ	マツダ	・ソルテラ
・Honda e ・N-VAN e: ・CR-V e:FCEV	・MX-30 EV MODEL ・MX-30 ROTARY-EV ・CX-60 PHEV ・CX-80 PHEV	レクサス
		・RZ450e ・RZ300e ・UX300e

(令和 6 (2024) 年 10 月時点)

御杖村地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

御杖村 政策推進課

〒633-1302

奈良県宇陀郡御杖村大字菅野 368 番地

TEL:0745-95-2001

FAX:0745-95-6800